

2024年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み

- 総評は、報告書の総評における意見、課題を抜き出して中項目に分けた。
- 2024年度報告書における意見・課題は新規課題か継続課題かを振り分け、担当している部門を明記した。
新規の担当は、継続課題との関連と意見・課題の内容と部署の関連性から記載した。
- 新規課題にはアンダーラインを引いて掲載した。

※1: 2023年度の意見・課題への取り組み(年度末点検)をもとに、2024年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み(2025年度活動)の進め方を記述。

※2: 中間点検は第2回学校関係者評価委員会に報告予定。

※3: 年度末点検は次年度第1回学校関係者評価委員会に報告予定。

大項目	中項目	2024年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1	中間点検 ※2	年度末点検※3
重点目標	2. 重点目標と達成するための計画・方法 (1)学生確保と学科ラインナップの検討	○魅力のあるカリキュラムと高い教育実績が募集に結びつく。そのような好循環を生み出す施策について、検討を重ねていただきたい。 <u>(2024年度総評)</u>	新規	校長	■現場で求められる専門性に付加すべき事項は、教育課程編成委員会でご意見いただいている。 ■昨今の学生の社会性(特にメンタル面)については、日常の学校生活の中で体得していくものである。専門家であるカウンセラーに協力を仰ぎ、また教員同士の研鑽を重ね、心身面での成長を促す日常を通じ成長させていく。	■分野ごとに教育課程編成委員会を開催(看護7/18、医事7/29、介護8/8、くすり9/8)し、現場で求められる最新また強化すべき知識・技能等をヒアリングした。その内容を踏まえ、次年度カリキュラムに反映させるべく準備に取り組んだ。 ■学生を取り巻くさまざまな環境(生活面、経済面、精神面)が複雑化、多様化しており、担任、学科だけで解決していくことが困難な事例が生じている。その解決に向け、そこで行政、カウンセラーにも助力を仰ぎ、また教員同士の協議の場を設けることで研鑽を重ねている。	■分野ごとの本年度2回目の教育課程編成委員会を開催(看護7/18、医事7/29、介護8/8、くすり9/8)し、現場で求められる最新また強化すべき知識・技能等をヒアリングした。その内容を踏まえ、次年度カリキュラムに反映させるべく準備に取り組んだ。 ■さまざまな背景を持つ学生が増えており、その対応を担当、保健室、カウンセラーで共有し、退学防止に努めた。またカウンセラーより行政やNPOも紹介を受け総合的なサポートを展開、教員同士の協議の場で共有し、ノウハウを蓄積することができた。
1 教育理念・目的・育人人材像	(2)育人人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	○技術・技能・知識を身につけて、医療関連・介護関連のスタッフとして十分力を発揮し、自立できるような学生を育ててほしい。(2023年度総評)	継続	医療秘書科	■医療秘書としての専門知識を身につけ、医療現場で求められる人材に成長していることを実感できるようなカリキュラムの策定を、随時行う。 ■専門知識・技能の習得と並行し、1年次からキャリア教育・社会人化教育をベースとした指導を目指す。	■診療報酬請求事務、医療関連法規や用語等の専門科目と秘書概論や秘書実務、病院受付実務など、現場に必要な知識と実践的な科目を効果的に連携させる学びを実施している。医療の専門知識とコミュニケーションスキルを結びつけ、医療現場で求められる総合的なスキルの習得を目指している。 ■キャリアデザインと社会人基礎を中心に2年間で成長できるカリキュラムを配置している。	■医療現場で求められる専門性とコミュニケーションスキルを、2年次病院事務実習で生かし、実践として体験することができた。その後の総括としての発表会(プレゼンテーション演習)では、自分の言葉で発表することができ、発表準備の段階で振り返りを行いながら、PDCAを意識して取り組んだ。 ■2年間のキャリアデザインを基盤として、社会人基礎授業や病院事務実習、就職活動を通じて、学生の成長は確実に進んだと捉えている。
			継続	医療事務IT科	■【医療事務】と【IT】の最新の専門知識や資格を身につけ、医療ITのスキルを活かして病院の未来を担う人材を育成するためのカリキュラムが用意されている。卒業までに段階的にステップアップできるようサポートし、卒業後も目的をもって成長できるような教材を用意し、丁寧な指導を心がけている。	■学生が、段階的に最新の専門知識や資格を身につけられるよう意識した授業作り、カリキュラム作りを行っており、今後の新入生についても現在検討している。各教科の課題やアプリ学習、試験を常にブラッシュアップし、学生がそれぞれ目標を達成して、成長できるように指導している。	■卒業までに段階的にステップアップできるように、授業構成やカリキュラムを検討、作成した。また、学年ごとに定めた目標に向かって学生が成長できるように、課題やアプリ学習、試験を常にブラッシュアップし、サポートする体制を整えることができた。
			継続	診療情報管理科	■診療情報管理士の専門知識や関連する資格を身につけ、そのスキルを活かして病院の未来を担う人材を育成するためのカリキュラムが用意されている。卒業までに段階的にステップアップできるようサポートし、卒業後も目的をもって成長できるような教材を用意し、丁寧な指導を心がけている。	■学生が、段階的に最新の専門知識や資格を身につけられるよう意識した授業作り、カリキュラム作りを行っており、今後の新入生についても現在検討している。各教科の課題やアプリ学習、試験を常にブラッシュアップし、学生がそれぞれ目標を達成して、成長できるように指導している。	■卒業までに段階的にステップアップできるように、授業構成やカリキュラムを検討、作成した。また、学年ごとに定めた目標に向かって学生が成長できるように、課題やアプリ学習、試験を常にブラッシュアップし、サポートする体制を整えることができた。
			継続	くすり・調剤事務科	■くすり・調剤・美容に関する幅広い知識・技術を身につけることにより、様々な分野で活躍できる人材の育成を目指す。 ■資格取得に必要な知識だけでなく、働くうえで求められる応対方法や実技なども身に付けることができるよう、カリキュラムの策定を実施する。 ■実習を通じて職種に関する理解を深めることにより、職業観を育成し就職後のミスマッチを減少させる。	■第1回学校関係者評価委員会、第1回くすり・調剤事務分野教育課程編成委員会、学科会議などを通し2026年度入学生カリキュラムの見直しを行った。 ■より実践的な内容を授業に組み込めるよう兼任講師とも協力している。 ■株式会社ツルハによる薬店実習を実施し、より実践的な知識を身につけることができた。	■第2回学校関係者評価委員会、第2回くすり・調剤事務分野教育課程編成委員会、学科会議などを通し2026年度入学生カリキュラムの見直しを行った。特にくすり・調剤事務科の3つの柱である薬、調剤、美容の単位数を増やし、より企業から求められる学生の育成に注力している。 ■株式会社ツルハ、東京調剤センターによる薬局薬店実習を実施し、より実践的な知識を身につけることができた。

大項目	中項目	2024年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1	中間点検 ※2	年度末点検※3
			継続	介護福祉科	■2025年度もディプロマポリシーとして「チームシップ(自分もチームとともに成長できるよう挑戦する!)」を実践できる。人権擁護に基づいた職業倫理に適う行動を選択できる。(共有できる・協働できる・創造できる・満足解思考ができる)を掲げ、継続した取り組みを展開する。	■2年生は4回の臨地実習と日頃の学習活動を通して専門的な知識と技術の修得度が上がり、一部の留学生を除きチームシップと倫理観の実践ができるようになってきている。 ■1年生も2回の臨地実習を経験し、専門的な知識と技術の基盤がつくられ始めている。ただ、日本語能力の低い留学生の学習進度に課題が出ている。	■4つのディプロマポリシーに関する卒業前自己評価の結果より、4つの課題のS評価とA評価の合計の平均値が65.4%であり、1年次終了時の平均値31.8%と比べ2倍以上高まった。現場のニーズに応えられる、応えられるよう努力できる専門職が巣立っていった。 ■留学生の日本語能力が全体として向上している。日本人学生と留学生との協同の質が高まっている。一方で学業成績の個人差がやや開いた。2年次4月からスモールステップで個々の能力を育み、国試合格を目指す。
			継続	看護科	■掲げた教育目標を目指し取り組んでいく。2025年度は臨地実習先が変更となり様々な医療機関で実習を経験する。その経験の中で培う看護実践力と専門職業人としての能力を育成していく。	■新たな実習施設での実習を開始したが、看護実習生としての態度等における問題発生事態を受けて、教育理念と共に求められる卒業生像に向けて指導内容・方法の検討に取り組んでいる。時代の変化と共に学生の質も変化しそれに合わせた教育内容に取り組んでいく。	■前期に発生した実習における問題はその後問題が生じるとは無く無事に終了した。看護師を目指す入学生の質の変化は今世の中での傾向として継続すると思われる。よって看護科が目指す所を再度見直し教育評価に着手する事としている。
	(4)社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	○外国人の支援や社会人の学び直しについては、引き続き社会のニーズを的確にとらえ、先を見越して運営することが望まれる。	継続	校長	■急激な留学生の増加に体制が追いついていない。今後の外国人労働力の必要性和留学生に対する理解を深めるための研修を実施し、専門学校としての語学、生活面、各種手続きのサポート力の底上げをはかる。 ■本校における社会人のリスキリングは、医療事務・登録販売者に限定され、現在社会的な受講ニーズが低調である。この領域のままなのか、他の領域に踏み出すのか判断が必要である。	■留学生の生活面、在留ビザの面、語学力強化の面で、学務課を中心に事務局総出でサポート体制を構築した。また特に必要な留学生に向けて日本語講座を実施し、日本語力の底上げをはかった。 ■リスキリング事業は、医療事務・薬分野の人气が低調であり、未開催や期待する収益があげられていない。今後事業継続の可能性の検討を行っている。	■3つのサポート(生活、ビザ、語学力)の対応に追われたが、事務局総出でサポートを行ったため、ノウハウが蓄積できつつある。留学生の日本語補講講座については、出席が思わしくない学生もあり、今後の課題である。 ■リスキリング事業は、分野の志願者が不調なため講座の採択が困難になり、また採択されても受験者が定員を大きく下回り、収益があげられず予算達成ができなかった。
3 教育活動	2. 教育方法・評価等 (1)教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	○在学中に社会人としてのコミュニケーションスキルが身につくような授業の仕組みづくりに期待したい。 ○発表形式の授業は、自分の考えを人前で話すことの慣れが就職活動や仕事に役立つと言われている。引き続きの取り組みが望まれる。	継続	医療秘書科	■講義科目・演習科目において、積極的にグループワーク等を取り入れ、グループの中で相手と協調することなどを主体的に取り組む気持ちを引き出すことを目指す。 ■学校行事、学科イベントを通し、対人スキルを磨き、協働し人を思いやる気持ちを表現できるよう、教員は支援的な関与を心がける。	■授業内でも、グループ取り入れワークを、自らの意見を発表したり、他の意見も傾聴、グループ内での意見をまとめ発表するという取り組みを実施している。 ■学科イベントでは、グループごとに協力して行動計画を立て、他の意見も取り入れながらみんなで行動するという取り組みを実施。このようなグループワークを通し、対人スキルの向上や他を思いやる行動が出来る取り組みを実践している。	■授業内でグループワークを取り入れることで、自ら考えようとする力、他者の意見も真摯に聴いてみようとする力、多種多様な意見をまとめる力などが確実に育った。またその力を就職活動に生かすことができた学生もいた。 ■学科イベントでは、グループ内での意見の違いやそのことから対立が起きた場面もあったが、そのことを通して、他との違いや自らの意見を伝えることの大切さなどを学ぶことができる機会となった。
			継続	医療事務IT科	■授業では、グループワークやディスカッションを取り入れ、社会人として必要なコミュニケーションスキルを学んでいる。 また、他者と適切なコミュニケーションをとり、良好な人間関係を築くために必要な要素を学んでいる。 ■学校生活における様々な場面において、自分の考えを他者に理解してもらえるよう表現することは非常に重要であるので、1年次から段階を経て意見を発表する機会を与え、徐々に習熟するよう指導する。	■学校関係者評価委員会、医療事務分野教育課程編成委員会にてご意見を伺い、カリキュラムの見直しを行っている。授業の中で、各担当教員が自身の職業経験や医療業界の情報を伝え、具体的なコミュニケーションの取り方や、良好な人間関係を築く方法を伝えている。 ■クラス内で自身で考え、意見を発信する指導は各教科の担当教員が行っている。	■学校関係者評価委員会、医療事務分野教育課程委員会においていただいたご意見をもとに、カリキュラムの作成を行った。授業、講演、実習その他のあらゆる機会を通して、社会人としてのコミュニケーションスキルを意識させ、それを身につけるための指導ができた。
			継続	診療情報管理科	■授業ではグループワークやディスカッションを取り入れ、社会人として必要なコミュニケーションスキルを学んでいる。 また、他者と適切なコミュニケーションをとり、良好な人間関係を築くために必要な要素を学んでいる。	■学校関係者評価委員会、医療事務分野教育課程編成委員会にてご意見を伺い、カリキュラムの見直しを行っている。授業の中で、各担当教員が自身の職業経験や医療業界の情報を伝え、具体的なコミュニケーションの取り方や、良好な人間関係を築く方法を伝えている。	■学校関係者評価委員会、医療事務分野教育課程委員会においていただいたご意見をもとに、カリキュラムの作成を行った。授業、講演、実習その他のあらゆる機会を通して、社会人としてのコミュニケーションスキルを意識させ、それを身につけるための指導ができた。
			継続	くすり・調剤事務科	■各授業の状況に合わせてペアワークやグループワークを段階的に取り入れ、他者とのコミュニケーションや意見交換ができるように授業担当教員に依頼している。 ■キャリアデザインやパソコン演習などの授業において、学習した内容を発表する機会を確保している。	■授業でのペアワークやグループワークの他、1年生と2年生で合同授業を実施し、就職活動や試験対策などの意見交換を行うことでコミュニケーション能力の育成を行った。 ■サークル活動や外部イベントへ積極的な参加を促すことで、授業外でも人間関係の構築をサポートしている。	■授業内での発表やグループワークなどのコミュニケーションスキルの育成は継続して実施している。また、企業や実習先との連携の中でも、社会人として求められるコミュニケーションの重要性を学生に伝えている。

大項目	中項目	2024年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1	中間点検 ※2	年度末点検※3
			継続	介護福祉科	■他者との関りを通じて「協働」を体験できる授業を展開している。具体的には臨地実習を2年間で480時間実施。ケーススタディ発表会(2年間の学習成果を発表する)を2年次の最終授業として行なっている。また、フィールドワーク、看護科との合同授業を通して、地域に暮らす人や他職種と関わる機会を設けている。	■2年生のコミュニケーションスキルの習得度は、個人差があるものの概ね良好な状態にある。「話す・聴く」よりも「読む・書く」が苦手な学生が多いが、残された学習課題への取り組みを通して4つの能力のバランスを整え高めていく。	■2年間の学びの総まとめであるケーススタディ発表会では、後輩や教職員、お世話になって実習先、アルバイト先施設の職員などを招き、個々の学生のPR能力を披露できた。大変高い評価をいただくことができ、学生自身、自分の現状を客観的に捉え評価することができた。これまでの介護実習を中心とする学習体験において、確実にコミュニケーション能力を高める事ができていた。一部の学生は課題を残しているが、内外からの高い評価がその証である。
			継続	看護科	■コミュニケーションスキルは授業・実習などにおいて様々な場面での体験を通じ学習している。また、対象とのコミュニケーション場面は患者に限らず指導者などチームとしてのコミュニケーション場面もある。時間短縮・簡潔さを求められるなど様々な経験を通じてスキルアップする場があり、専門職業人としての学修をしている。	■授業や実習を通じコミュニケーションを体験する機会には変わらない。専門職業人を目指す学生として患者をはじめ指導者等の目上の者とのコミュニケーション場面は特に大切な機会であるが失敗し問題となる事もある。教員側もTPOに合わせたコミュニケーションスキルを意識し指導に力を入れていく事としている。	■臨地での実習経験によって培われる事が多く上学年になるとその力が発揮されている。今後もコミュニケーションスキルの向上は職業人として重要なスキルであり変わらず取り組んでいく。
4 学修成果	2. 資格、免許の取得率	○資格・検定取得は、専門学校教育の大きなテーマの一つであることから、その取り組みと成果を本校の強みとして謳えるように、引き続きしっかりと進めてほしい。	継続	校長	■年度初めに、各学科の学科運営方針において各種検定・国家資格の合格率目標を掲げている。その目標達成に向けて、学科、教員が取り組んでいる。	■各学科の学科運営方針「各種検定・国家資格の合格率目標」に向けて補講等を実施した。現時点では、くすり・調剤事務科の医薬品登録販売者資格試験で昨年を10%超上回った成果が見られる。	■各学科が年度当初に設定した主となる検定・資格について補講・対策等を実施した結果、概ね、目標とした水準に達し、とりわけ介護福祉科の留学生の国家資格合格率78.6%(全国平均34.5%)となり、留学生指導の成果が見られた。
			継続	医療秘書科	■学科運営計画に示した卒業時検定合格率の達成に向け、一部科目については進捗別クラス編成を継続する。 ■2年次の後期まで検定に挑戦し続けるモチベーションを持てるような授業内容や学生への指導を心がけ、検定上位級の受験者数を増やし伸び残しのない指導を継続する。	■6月の検定試験は例年通り習熟度別クラスを設定した。 ■医師事務作業補助技能認定試験は、職種の求人数が多いことから、昨年度同様に受験を推奨した。 ■6月までの医療秘書検定は2級が70%の取得率となった。 ■6月の秘書検定は準1級(2年生)筆記試験合格率76%、その後の面接試験は合格率93%(30名受験中28名合格)という好成績を収めた。	■各種検定については、学力の差と検定試験に対する意識の差が大きく、全体として目標に到達できない検定もあった。特に2年生のコース別の検定で後期に設定したもののについては検定を受けるという意識が低い学生が多く、対応に苦慮した。次年度は2年生の各コース担当教員とも連携をはかり、目標に向け、前期が終了するまでに、すべての学生に各コースでの検定受験を推奨し、実施する。
			継続	医療事務IT科	■学科目標を設定し、その達成のための対策を推進する。特に診療報酬請求事務能力認定試験、医療秘書検定の取得率の増加を目指す。より上位級の取得を推進するとともに、資格未取得のまま卒業させることのないよう尽力する。また業界ニーズの高い医師事務作業補助技能認定試験に注力し、受験率を高め合格者を増やすよう努める。医療情報基礎知識、ITパスポートの取得を目指し入学時より段階的に知識を増やしてゆく。	■診療報酬請求事務能力認定試験、医師事務作業補助技能認定試験の取得率の増加を目指し、継続的に指導を強化している。引き続き、すべての試験においてより上位級の取得を推進するよう指導に努める。	■学力の差が激しく、数字的には学科目標に到達できなかった試験もあった。目指す資格の取得数には個人差があるものの、卒業生は全員が何らかの資格を取得し、卒業できた。在校生についてはそれぞれの学生に合った指導方法を検討し、引き続き目標に向かってサポートしてゆく。
			継続	診療情報管理科	■学科目標を設定し、その達成のための対策を推進する。特に診療報酬請求事務能力認定試験、医療秘書検定の取得率の増加を目指す。より上位級の取得を推進するとともに、資格未取得のまま卒業させることのないよう尽力する。また業界ニーズの高い医師事務作業補助技能認定試験に注力し、受験率を高め合格者を増やすよう努める。医療情報技師能力検定、がん登録の取得を目指し、卒業後でも勉強を続けてゆけるようにサポート体制を整える。	■診療報酬請求事務能力認定試験、医師事務作業補助技能認定試験、医療情報技師能力検定の取得率の増加を目指し、継続的に指導を強化している。卒業生の学びのサポートプログラムも整えている。引き続き、すべての試験においてより上位級の取得を推進するよう指導に努める。	■学力の差が激しく、数字的には学科目標に到達できなかった試験もあった。目指す資格の取得数には個人差があるものの、卒業生は全員が何らかの資格を取得し、卒業できた。在校生についてはそれぞれの学生に合った指導方法を検討し、引き続き目標に向かってサポートしてゆく。
			継続	くすり・調剤事務科	■学科が目標として掲げている資格や、さらに上位級に挑戦するように動機づけを行う。 ■学生が自身の成長や苦手な箇所を認識できるように問題演習の点数を継続的に計測し、その結果に基づいたアドバイスを実施する。 ■今年度より美容系の資格をより学生のニーズが高い資格へ変更している。また、登録販売者のカリキュラムを1年前期に集中させ、従来の2年次受験から1年次でも挑戦できるように変更し、資格取得率を高めている。	■学生の資格取得に対する意欲が高く、より上位の資格取得に挑戦している。 ■2025年度入学生より、登録販売者の資格取得を1年生で目指せるようカリキュラムの変更を行っている。登録販売者試験を1年次と2年次の両学年で挑戦し、より取得率の向上を目指す。 ■関連企業と継続的にカリキュラムについて打ち合わせを実施している。	■カリキュラムや検定協会の見直しにより、合格率や取得率は向上している。 ■2025年度入学生よりカリキュラムを変更したことにより、登録販売者の合格率は91%となった。また、美容系の検定においても取得率80%を超えている。

大項目	中項目	2024年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1	中間点検 ※2	年度末点検※3
			継続	介護福祉科	■国家資格の介護福祉士取得に向けた学習支援を、1年次後期から実施している。模擬試験を通算3回実施。2年次には国試対策講習を9月から始めている。受験直前対策講座を含め、3つの取り組みで合格に導いている。	■2年生・1年生ともに、国家試験対策は計画通り進んでいる。2年生の一部の学生(留学生と希望する学生)に対しては、昨年度よりも早めに国試対策の課題を設定し、取り組むように促している。	■国試合格率、学科としては77.8%ともう一つ伸びなかった。合格点を取れていたにもかかわらず、1つの科目群で0点を取ってしまった学生が3人いた事が、今回の結果における大きな要因になっている。日本人学生の合格率:84.6%(11/13人)、留学生合格率:71.4%(10/14人)。養成校の合格率は58.8%、留学生の養成校における全国平均合格率は34.5%。日本人養成校学生全国平均は91.1%。今回の結果から準備の時期を早めることを決定し、新年度の時間割に反映している。
			継続	看護科	■全員の国家試験合格を目指し取り組んでいる。実習期間の変更にもない夏休みが変則的であることに加え、例年国試対策を講じていた時期に対策が出来ないなど進度的に厳しい状況ではあるが学生の自主性を確認しつつ低学力者だけではなく学生全員をサポートできる体制で取り組んでいる。	■3年生担任が中心となりサポート教員を全員に配置している。グループごとに学習計画を立案し国家試験対策に取り組んでいる。模擬試験結果は成績一覧で担当者以外の教員も確認している。成績が低迷している学生は全教員で実習等で学習を強化している。模擬試験は希望者に自費での追模擬試験の受験の機会をつくり出題傾向と対策に向けて強化し取り組んでいる。	■1月の国家試験対策は予定が詰まっている中で教員が傾向と対策について取り組んだ。大体の学生が懸命に取り組む成績も少し向上し28名が受験している。結果26名合格となった。成績の向上には本人に意思が重要である。試験対策に取り組む姿勢は全員一致は厳しい状況であるが一層の工夫の必要性を痛感する。また、低学年からの取り組みが必要である。
	3. 卒業生の社会的評価	○就職した卒業生の情報収集をし、積極的に発信しアピールして欲しい。(2024年度総評)	新規	CSC	■医事系事務実習訪問時(夏季)や年度末の就職先訪問時、および就職先の来校時に確認を行っている。また卒業生キャリア報告会、オープンキャンパスなど卒業生来校時にも個別の確認を行っている。今後これらを活用し、在校生の就職の支援活動や広報活動に協力を求め一層の連携を図っていききたい。	■医事系病院事務実習訪問時(夏季)の聞き取り(場合によっては面会)に加え、本年度は人事ご担当者様に来校いただけるケースも多く、多くの病院で卒業生の活躍(就職に就いているケースも多数)などの情報を得ることが出来ている。また人事担当者や本校卒業生をキャリアデザイン授業へ招聘し、関係を構築しながら卒業生活躍の場を紹介している。	■年度末近く実施された「卒業生支援講座」に参加した卒業生に対しアンケートを実施し、現在の仕事の様子や満足度などのヒアリング、役職に就いているかなどの調査を実施した。また同じく年度末に本校から数多くの学生が就職している慈恵大学病院にて在学生向けの見学会・懇談会を実施いただき、現在同病院にて活躍している卒業生の生の声を学生たちが聞ける機会を設けた。これにより前期の卒業生キャリア報告会、来校する卒業生、そして年度末まで多くの卒業生の声を聞くことが出来た。
5 学生支援	2. 中途退学への対応	○入学後の手厚いサポート等、退学防止の取り組みに努めてほしい。(2022年度総評)	継続	学生委員会	■専門領域の異なるカウンセラーを3人配置し、相談室を構え学生のニーズに応えられるよう環境を維持している。また個々の学習スタイルにも配慮し「静かに学べる個室学習室」を常設している。クラス担任に対するカウンセラーによるサポートも実施し、相談支援体制の質を担保している。各学科で適宜情報共有を行い、クラス担任をサポートできる環境を維持継続している。	■8月に1年生の担任を対象に、「退学の意向を示した学生に対する対応およびその後の経過」に関する調査を行い、教職員間での共有を図った。 ■9月に1年生担任とカウンセラーの久保先生による懇談会を実施し、学生の兆候や実際の対策、指導上の悩み等について意見を交換した。 ■「保健室利用から相談コーナーに繋げる」等の連携機能強化が久保先生より提案された。 ■留学生の相談室利用については再考することとなった。	■次年度に向けて学生相談コーナーの利用方法を改善。秘匿性を保ちながら、より利用しやすい予約システムを導入。また進級生・新入生それぞれ年初に実施するオリエンテーション時に、3人のカウンセラーの先生から直に相談室利用の案内をしていただく予定。連携強化も含めて各クラス担任にも立ち会っていただく。
	4. 学生生活	○教育内容、学生の生活面等に対する心のケアを含め、すごく丁寧に支援されている。これを学校の強みとして継続していただきたい。(2024年度総評)	新規	医療秘書科	■担任は5月中を目途に学生との個人面談を行い、学生の声に耳を傾け、丁寧にヒアリングを行う。 ■必要に応じて随時面談を行い、学生の心理面、学習面などのサポートを行う。また家庭や学生相談コーナー、保健室、合理的配慮検討委員会等と連携を取り、総合的に必要な支援を心がける。	■各担任とも、ひとり一人の学生との個人面談は終え、さらに必要に応じて丁寧に耳を傾け、サポートを実施している。 ■年度初め当初、保健室登校をしている学生がいたが、保健室の先生、学校カウンセラーの先生、教員が連携を取り、全面的にサポートを実施。今では、本人なりのペースで休み時間の過ごし方が出来るようになった。	■学科教員全体で学生を見守ることができた。心配な学生については引き続き、関連部署と連携をとりながら見守っていききたい。
			新規	医療事務IT科	■入学前の提出書類や面談記録などから学生を知るように努力している。また入学後の早い段階より、全学生と面談を実施し、状況を共有、担任だけではなく学科の全教員で学生を見守る体制をとっている。トラブルか、またはトラブルになりそうな場合には、速やかに各部署に連絡、保護者やカウンセラーの意見、協力を仰ぎながら、適切な対応を行うよう努めている。	■各担任による学生面談を実施。日々の学生とのコミュニケーションが円滑なものとなるよう意識している。また、毎月行う学科会議で学生情報を共有し、担任だけではなく、学科教員全員で学生を見守っている。各部署との綿密な連携を怠らず、トラブル時は速やかに問題が解決するように努めている。	■学科教員全員で学生を見守ることができた。各部署と連携し、大きなトラブルはなく学校生活を送ることができた。
			新規	診療情報管理科	■入学前の提出書類や面談記録などから学生を知るように努力している。また入学後の早い段階より、全学生と面談を実施し、状況を共有、担任だけではなく学科の全教員で学生を見守る体制をとっている。トラブルか、またはトラブルになりそうな場合には、速やかに各部署に連絡、保護者やカウンセラーの意見、協力を仰ぎながら、適切な対応を行うよう努めている。	■各担任による学生面談を実施。日々の学生とのコミュニケーションが円滑なものとなるよう意識している。また、毎月行う学科会議で学生情報を共有し、担任だけではなく、学科教員全員で学生を見守っている。各部署との綿密な連携を怠らず、トラブル時は速やかに問題が解決するように努めている。	■学科教員全員で学生を見守ることができた。各部署と連携し、大きなトラブルはなく学校生活を送ることができた。

大項目	中項目	2024年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1	中間点検 ※2	年度末点検※3
			新規	くすり・ 調剤事務科	■各期に担当が面談を実施し、学生の状況把握に努めている。兼任講師とも欠席や授業の様子などを共有し、気になる学生については都度面談を実施している。 ■メンタル不調などについては、家庭の事情に配慮しつつ、保護者への連絡を早期に行うようにしている。学校と家庭が連携して学生をサポートする体制を重要視している。	■前期開始時に全員を対象として面談を実施した。また、必要と思われる学生に対しても随時面談を行い、より早期に対応できるような体制づくりを行っている。 ■出席や成績が芳しくない学生に対しては、早期に保護者へ書面や電話連絡を行い、情報の共有や連携を取っている。	■各期に担当が面談を実施し、学生の状況把握に努めている。 ■出席や成績が芳しくない学生に対しては、早期に保護者へ書面や電話連絡を行い、情報の共有や連携を取っている。また、兼任講師とも連携し、出席状況や成績についても注視し対応している。 ■後期に関しては大きなトラブルに発展することなく、学科教員と兼任講師で対応することができた。
			新規	介護福祉科	■入学時、進級時の個人面談の継続。「話しやすい関係づくり」を継続し、メンタル不調の早期発見早期対応を実現する。メンタルヘルスの基礎知識と対処法等、外部研修等を利活用し、支援の質を担保する。	■5月に各クラス担当が担当学生全員と個人面談を実施。学生が話しやすい(話したい)教員を自由に選んで相談できるよう、丁寧な関わりを継続している。1年生、2年生ともに継続して相談を繰り返している事例がある。	■2年生は国試対策、就職活動、体調管理、アルバイトなど公私にわたり、各教員がその時々で学生からの指名(リクエスト)を受けて相談に応じていた。1年生については各担任、副担任が中心となって、相談に応じた。1年生を対象に本学科を選んだ理由を調査した結果、1位は教員(先生)であった。
			新規	看護科	■担任制をとり、かつ1年次は2名体制の担任として細やかな指導を行っている。また全学年前期・後期で担任面談などを行い学生個々の学習状況・生活状況・人間関係などの把握を行う様にしている。また、個別対応が必要な場合は教員間で共有し一貫した対応が出来るようにしている。特別な案件については本人に許可を取り保護者に連絡し状況について共有しながら指導にあたっている。加えて、4名の留学生については面談などを行い困りごとを共有し指導にあたっている。	■前期・後期で全員対象の担任面接を実施。そこで得られた情報は共有できるように個別シートに記入している。一貫した指導が必要な事は学科教員会議で教員間で検討しながら指導に取り組んでいる。特別な指導が必要な場合は学科長からクラスまたは個別に指導にあたっている。更に保護者と連携の必要性があった場合においては直接保護者に状況を伝えるなど実施している。留学生については支援教員が関わっている。または本校の留学生サポートと連携し他の学科の学生との交流を行っている。	■担任面談は例年通り実施している。年度途中で休学、または退学の学生が一部存在したり、学習状況が困難な様子の学生には時折べつに面談等が必要である。担任以外が全体的な指導に関わる機会はありません。留学生は自ら熱心に学習に取り組んでいる様子である。日本語の読み書き以外に言葉の意味などの理解は難しい様子が伺える。今後の取り組みとして工夫が必要である。
7 学生の募集と受入れ	1. 学生募集活動	○仕事の魅力や就職率の高さをいかに高校教員や保護者に発信していくかが大事である。(2023年度総評) ○SNSには、動画や先生方の表情から得られる安心感があるので、積極的に魅力を発信し、継続していただきたい。(2024年度総評)	新規 ／ 継続	広報室	■首都圏の重点校を中心に高校訪問を行い、仕事の魅力や就職率の高さを含め、高校教員にアピールする。また、SNSや発送物において入学対象者や保護者に発信していく。	■事務局員を中心に130校の高校訪問を行った。その中で仕事の魅力や就職率の高さを含め、本校の魅力を高校教員にアピールした。入学対象者や保護者に向けてはオープンキャンパス実施のほか、SNSを月に2~3本、オープンキャンパス等の案内を月に1回、発信・発送した。	■中間点検同様、高校教員に高校訪問、ガイダンス等で仕事の魅力や就職率の高さを含め、本校の魅力をアピールした。入学対象者や保護者に向けても同様に、オープンキャンパス、発送物等においてアピールした。SNSも継続的に投稿・掲載した。
9 法令等の遵守	2. 個人情報保護	○学生には、特にSNSについて、個人情報保護、プライバシー保護、守秘義務等の観点からの注意喚起が引き続き求められる。	継続	事務局長	■学生生活ガイドおよびオリエンテーションでの注意喚起にとどまらず、特に学外実習を中心とした学科毎の指導を進めていく。	■実習先における個人情報保護にトラブルが発生している。情報の共有と今後の注意喚起について検討し実行することが必要である。	■実習施設における個人情報のトラブルについては再発防止に向け各学科において再発防止に向けた指導がなされた。
			継続	学生委員会	■SNSを通じた犯罪被害の予防も含め、豊島警察と連携して個人情報保護に関する注意喚起と啓発を継続していく。	■各学科が豊島警察署の協力の下、犯罪被害に関する注意喚起と啓発を行う予定となっている。	■地域の大手金融機関の協力のもと、介護福祉科と薬調剤事務課の2年生を対象に個人情報と金融に関連する犯罪・被害予防に関する講座を実施。
10 社会貢献・地域貢献	2. ボランティア活動	○ボランティア活動は人材育成の観点から有意義なものであるため、さらに仕掛けを工夫して奨励してほしい。	継続	学生委員会	■福祉関連事業者からの依頼が多くある。学生への情報発信をもちろんだが、ボランティア未経験者が参加しやすくなるような取り組みを実施することで、ボランティア活動への関心を高め参加者増を目指す。	■ボランティア情報の発信だけではなく、ボランティア活動のノウハウ等を具体的に学ぶ機会を提供することで、ボランティア活動への興味づけ、参加への意識づけを促していく。	■豊島区の担当部署協力のもと、ボランティア講座を学内で開催する準備に取り掛かっている。また新年度から学校近隣の公道清掃の意向を豊島区担当部署に届け出を出し、定期的実施する予定。 ■今年度は介護福祉科の学生を中心に新宿区と杉並区にある福祉作業所のお祭りボランティアに参加。次年度はより多くの学生が参加できるよう、働きかけていく。